

第4回

英語教育



茨城県猿島郡境町



境町

解説者

関東学院大学
法学部
地域創生学科 教授
牧瀬 稔
まきせ・みのる



日本都市センター研究室、地域開発研究所研究部等を経て、2017年度から同大学勤務。専門は自治体政策学、地域創生、地域政策、行政学。全国各地のまちづくりや政策形成にアドバイザーとしてかかわる。著書に、『牧瀬流まちづくり すぐに使える成功への秘訣』（経済調査会）等多数。

牧瀬先生が教育×シティプロモーションについて解説した記事が、本誌 2023 年度 Vol.2 に掲載されています。右記の2次元コード、または下記 URL からアクセスしてご覧ください。



https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-board/article16035/

境町 概要

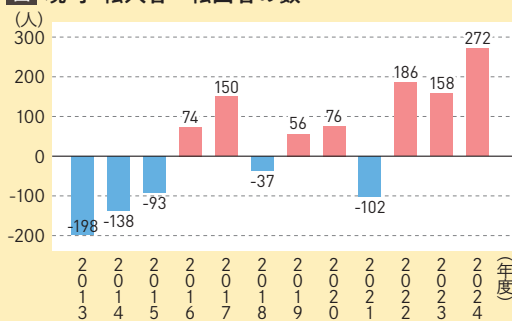
茨城県の西南部に位置する。利根川と江戸川の分岐点という立地を生かし、江戸時代には水運を利用した利根川随一の「河岸のまち」として栄えた。2014年に就任した橋本正裕町長は、財政の立て直しと移住施策に注力。『田舎暮らしの本 2025』（宝島社）の「移住者増の人気地ベスト100」で全国1位を獲得した。
人口 約2万3,800人 面積 46.59km²
町立学校数 小学校5校、中学校2校
児童生徒数 小学校約1,200人、中学校約610人

ふるさと納税等で財源を確保し、ALTの複数配置や海外留学を実施

前号まででお話してきたように、子育て世代の移住希望者にとって、教育施策は移住先の重要な判断材料になります。もちろん、仕事や住環境などを含め、移住先は総合的に検討されるので、選ばれる町づくりには多方面にわたる特色ある施策が欠かせず、また、充実した施策を遂行するための財源の確保が必要になります。

その両輪をうまく回し、移住者や交流人口が増えているのが、茨城県境町です（右図）。鉄道が通っていない町ですが、町の公共交通に自動運転バスを導入し、子どもや高齢者の移動の足を確保したり、25年間住み続けると家と土地が無償譲渡される住宅を提供したりするなど、独自の施策を展開しています。

図 境町 転入者－転出者の数



※境町役場の提供資料を基に編集部で作成。

同町の教育施策の大きな特色は、「英語移住」を謳う英語教育です。町立小・中学校全7校に複数人のALTが常駐するほか、小・中学生のアメリカ・ハワイでのホームステイ、イングリッシュサマーキャンプの実施、英語の外部検定試験の町内での実施と検定料の公費負担といった施策を行っています。金銭的な負担がなく、質・量ともに充実した英語教育を受けられることは、子育て世代への強いアピールポイントになります。また、国際基準のBMX*¹やスケートボードのパーク、ホッケーフィールド等のスポーツ施設が町内に整備されていることから、現役選手に加えて、それらの競技で世界を目指す子どもが、家族で移住してきています。その際も、英語教育などが充実していることが、移住の決断を後押ししていると聞きます。財源の1つは、ふるさと納税です。地場産業である米や牛肉などのほかに、ふるさと納税で人気のある返礼品を調べて、うなぎや干し芋の加工施設を建設。返礼品に加えたところ、過去7年連続で関東地方の自治体で最高額を達成しました。

境町 インタビュー

義務教育段階で「使える英語」の育成を図る

町長 橋本正裕



Web VIEWnext ONLINE

境町はどのような教育施策を行っているのか、その財源はどう確保しているのかを、ウェブサイトでご紹介しています。下記の2次元コードからアクセスしてください。



2012年度に、隣接する市に中等教育学校が設置されてから、約1割の子どもが町外の中学校に通う状況が生じていました。移住者増にもつながる公教育の魅力化は急務であると捉え、英語教育の拡充に着手しました。有識者の助言や海外の英語教育機関の視察を踏まえて、幼い頃から日常的に英語に触れることが重要だと考え、ALTを大幅に増員。現在は26人を雇用し、町立小・中学校全7校には1校あたり2～5人、公私連携型保育所には1園あたり1人を配置しています。授業には毎回ALTが2人以上加わり、休み時間や給食時にも子どもはALTと会話をしています。

また、小学1年生から英語の授業を実施しており、小学1年生～中学3年生の英語の授業時数は、学習指導要領の標準時数よりもそれぞれ週1時間増やしました*²。英語のオンデマンド教材を無償で配布し、家庭学習も支援しています。そのように、家庭の経済状況にかかわらず、学校で実践的な英語力を習得できる環境を整えたところ、町外の中学校に進学する生徒が減り、町内の教育に盛り上がりが見られます。

* 1 Bicycle Motocross の略。自転車競技の一種。 * 2 小学3年生～中学3年生は、教育課程特例校制度等を活用し、英語の授業時数を増やしたため、総授業時数は変えていない。